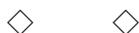


第9回全国合気道指導者研修会

第9回全国合気道指導者研修会（主催＝日本武道館・合気会、後援＝スポーツ庁）は11月5～7日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで講師8名・助講師1名と参加者20名が集まって開催された。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、募集定員の縮小や換気・消毒の徹底など、コロナ対策を講じながらの実施となった。本事業は中学、高校の教員及び社会体育指導者を対象に、学校教育における合気道の指導法に関する実技と講義を行い、学校における合気道指導の充実に資することを目的に開催された。

開講式では、はじめに植芝守央合気会理事長が「本研修会を通じて合気道の素晴らしさを感じていただき、伝えていただくことで、合気道を採用する中学校が増えるよう、そして子どもたちに合気道・武道が浸透していくことを願っています」と挨拶。続いて、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が「中学校武道必修化から10年、現在は内容の充実期に入っています。これからも武道必修化を推進し、皆様と武道の振興を図っていきたいと思います」と挨拶を述べた。



■講義・稽古：植芝充央講師

合気道の歴史、概要を映像で紹介。合気道の教育的効果、稽古方法などを説明した後、植芝講師指導の下、礼法や受身などの基本的動作や技法の稽古を全員で行った。

■実技「合気道授業への導入」：金澤威講師

中学校での合気道授業を想定し、基本的な動作や技の指導法を全員で体験した。学校の授業では、「安全に、合気道の面白さ、楽しさを感じてもらうこと」が重要であると説いた。



植芝講師の指導による稽古

■実技「中学校合気道指導法①・②」：日野皓正講師、梅津翔助講師

保健体育科教員・学校関係の参加者は、受身や技の各動作を丁寧に確認しながら、合気道の技法の指導法を学んだ。

■協議・発表「全国指導者研修①」：尾崎响講師、森智洋講師

都道府県連盟関係の参加者は、「時代に即した指導者像」をテーマに、4班に分かれてグループディスカッションと全体発表を行った。

■講義「子どものやる気を高める指導方法を考えるースポーツ心理学の知見からー」：前川直也講師、立木幸敏講師

前川講師が専門のスポーツ心理学の知見を基に、子どもが自らやる気になるためのヒントを解説。

「達成経験で育まれる運動有能感」「成績志向ではなく課題志向」「練習の過程や努力のプロセス重視」「一人一人の観察」「自身の成長・向上を軸に」など指導で大切にしたい視点や心構えが説明された。

■実技・模擬授業「中学校合気道指導法③」：日野講師、梅津助講師

中学校合気道指導法班から選ばれた3名が先生役を務め、参加者を生徒役とした模擬授業が行われた。先生役3名は「中学校合気道指導法①・②」で学んだ指導法を、実際の授業形式で実践した。

■実践発表「全国指導者研修②」：林典夫講師

中学校での合気道授業に携わっている指導者・教員により、実践現場の報告が行われた。また、2名の中学校校長から、合気道が授業で採用されるための課題や取り組み方などが発表された。



閉講式では、林典夫合気会常務理事が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。



参加者が先生役、生徒役を務めて行われた「模擬授業」